

じっきょう 家庭科資料

(通巻 55 号)

みんなで家庭科を

No. 40

巻頭

“ふ・ろ・し・き”
を見直そう

も く じ /

“ふ・ろ・し・き”を見直そう

未来を心豊かにする先人の知恵	1
環境・地域・手作り看板	7
環境と健康に配慮した「住みよい家」	12

“ふ・ろ・し・き”を見直そう 未来を心豊かにする先人の知恵

京都和文化研究所 むす美 山田 悦子

まずは、家庭科をご担当の先生方にお読みいただけるこのような機会をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

さて、今「ふろしき」は新しい時代を迎えています。その大きなきっかけとなったのは、皆様もご承知のとおり、昨今の“環境問題への意識の高まり”です。そしてもう一つ、あえて特筆したいのは、“日本文化に対する関心の高まり”です。“ふろしき”を見直す動きにも、時代の求める“これからの課題”が見え隠れしています。その現状をお伝えいたします。

では、はじめに、昨今のふろしき事情、ふろしきの本質、ふろしき活用法、どう伝える？

ふろしきの夢、の順に話をすすめましょう。何の変哲もない四角い布ですが、実はその中に知ってい

るようで知らない“日本”や、思いがけない魅力が隠されています。たかが「ふろしき」されど「ふろしき」...、先入観や、固定概念を少し横へ置いて、しばらくの間お付き合いいただければ幸いです。

1. はじめに～ふろしきが消えた理由～

ところで皆さんは、ふろしきをお使いですか？先生というご職業柄、お使いの方もいらっしゃるでしょう。その一方、「“バッグ”のほうが便利！」「おしゃれ！」「“ふろしき”は面倒！」「使いづらい！」「古い！」というイメージをもたれている方も多いのではないのでしょうか。ほんの40年ほど前までは暮らしの重宝な道具として使われながら、時代とともにその影を潜めたふろしき。その背景には、生活スタイルと価値観の急速な変化があったと思わ

れます。高度成長期を経て、暮らしは急速に欧米化し、大量生産・大量消費が生む“使い捨て文化”を受け入れ、合理化、簡略化、スピード化を追求する時代を歩んできました。その結果、豊かさを実感する一方で、それまで“ものを大切に扱い、何度も使い、最後まで有効に使いきること”が美德とされた価値観は薄れていくことになります。そのような中で、「ふろしき」もご他聞に漏れず、便利でおしゃれな“紙袋・ビニール袋の出現”にその存在価値を譲ることになります。また“宅配便の普及”で、自ら届け物をする機会が減ると、そこで使うふろしきの扱い方もわからなくなった…、というのが実状ではないでしょうか。道具は時代が必要としなくなると消える運命にあります。時代の変化の中で“ふろしき”は、使い手と使い道を同時に失っていくことになりました。

2. 昨今のふろしき事情

2005年ケニアの環境副大臣（当時）ワンガリー・マータイ女史がノーベル平和賞を受賞され、3R（リユース・リデュース・リサイクル）活動や「MOTTA IN A I」（もったいない）の提唱は、日本をはじめ世界に大きな影響を与えました。また小池百合子元環境大臣の“クールビズ、ウォームビズ”など、一人ひとりができる環境問題への取り組みの旗揚げによって、環境に対する意識は大きく前進しました。中でも、“打ち水”や“ふろしき”など、昔の日本の暮らしの中にあったことの見直しが“エコライフ”として再注目され、「過去の知恵を、未来に活かそう」という動きを生みました。人にも地球にも優しい“循環型のエコライフ”は、先人たちがすでにおこなっていた暮らしそのものであり、そこにお手本があったのです。今、私たちが求める心豊かで快適な暮らしは、先端技術や他国の模倣の先にあるものではなく、時代を少し遡った自国の過去の知恵にこそ、そのヒントがあることにやっと気づき始めたのです。このようにして、“ふろしき”も再び世の中の話に取り上げていただけることが多くなり始めました。

ふろしき＝“エコ”（何度も使える・ゴミにならない）というのは周知のとおりです。しかし現代のライフスタイルにふろしきが本当に合うのかどうか。いいとはわかっていても、使う魅力があるのかどうかまだまだ半信半疑です。そう一足飛びには行

きません。誰しも長年使っていなかっただけに、人々に定着した先入観を拭き去ることと同時に、新鮮で魅力的なふろしき活用法の提案が急務となりました。また、これまで使ったことのなかった人や次世代にも伝えることが、今後の大きな課題になってきています。

2005年2月、私どもは東京・神宮前に「京都和文化研究所 むす美」というアンテナショップを構えました。その理由は“ふろしきの将来”に対する大きな危機感からでした。文頭でお話したように、ふろしきの需要が年々減少傾向にあるなか、ふろしき専門メーカーとして身をもって真価を問うべく、マーケットと向き合うことにしたのでした。エコからの動きはちょうどその年の後半のことでした。その後徐々に“ふろしき”を取り巻く状況に変化が起り始めました。まだまだ小さな兆しではありますが、でも確実に新たな使い手が登場し、積極的に使うことを楽しんでいただけるアイテムとして関心が高まってきたのです。そんな最近の傾向として特徴的な点をまとめてみました。

エコ使用に関しては特に若い人たちが積極的です。義務的なイメージではなく、かっこよくおしゃれに楽しんでやりたい。店頭では包装を断る若い人たちも少なくない。

バッグ仕様・サイズは約90cm（二四巾）・洗濯可能な素材

サブバッグとしての活用法が人気です。

和のデザインソースをモダンに取り入れたものが若い世代に人気

“和テイスト”に関心が高く、洋×和、新×古などのコーディネートが上手です。

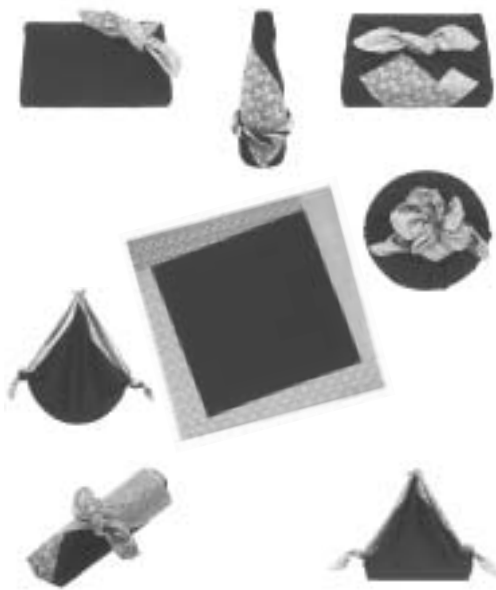
ふろしきを使ったことのない人の関心が高い

ふろしきへの関心＝活用法・使い方への興味

3. ふろしきの本質＝日本人そのもの

さて、“ふろしき”の本質とはなんなのでしょうか。それは“日本人の知恵・思考”そのものともいえる“最小限のモノを最大限に活かす”ことを教えてくれる道具だと私は考えます。たとえば、西洋の文化“鞆”と比較してみましょう。“鞆”は、セキュリティに優れ、またとてもお洒落です。しかし形状が変えられず、容量が決まっているのであまり融通が利きません。容量や形状に合わせて入れるものが制限されるのです。一方“ふろしき”は、たためば

写真 一枚の布が包むものによってさまざまに変化。まさに変幻自在



コンパクトになり携帯性に優れています。また目的に合わせて形状は変幻自在です（写真 参照）。中身に合わせて結ぶところを変えれば、丸いものでも、四角いものでも、長細いものでも、また大きさや形状の違う複数のものでも安定して運ぶことが出来ます。また、一枚の布だからこそ、クロスやシートとして敷いたり、タペストリーとしてかけることもできるのです。この融通性や汎用性は“ふろしき”の特性といえますが、日本の生活文化には他にも同じようなことが見受けられます。たとえば、“住空間”を考えてみましょう。「ちゃぶ台を置けば“居間”、座布団を出せば“客間”、布団を敷けば“寝間”」と、日本の住空間はひとつの部屋が目的に応じて何通りにも使えます。その点、西洋では「ベッドル

ム、ダイニング、リビング…」とそれぞれに役割が決まっています。また、“食のシーン”でも、日本人の食事は「お箸」があれば全部に対応できますが、西洋では「ナイフ、フォーク、スプーン」を使い分けます。比較してみるとなんとなく“日本人の知恵”が見えてきませんか。日本人は、「目的に合わせてモノを柔軟に変化させる」のに対して、西洋人は「目的に合わせてモノを使い分ける」のです。どちらが良い悪いではなく、思考の根本が違うのです。それにしても、先人たちの知恵は、なんと柔軟で豊かなのでしょうか。“最小限のモノを最大限に活かす”という、シンプルで合理的な発想に敬服します。現代を生きる私たちは、物質的な豊かさと引き換えに、いつの間にか“知恵を使う暮らし”を忘れ、すっかり“モノに頼る暮らし”になってしまっていることに気づかされます。

ところで日本の生活文化は、高い美意識も育んできました。ふろしきの意匠は、基本的には松竹梅、鶴亀などの“吉祥文様”（おめでたい文様）が描かれ、それらの文様にはそれぞれに意味があり、包むことを通してその願いを託したのです。また柄の構成にも特徴があります。使ったときにこそ最も映える位置に、主たる文様が出てくるように配置されているのです。これらは、相手への心遣いから形づくられてきたと想像でき、そこには日本人特有の繊細な感性を垣間見ることができます。

実は、このような日本独特の美意識や思考が、今、若者の心をとらえています。冒頭で申し上げた若い世代の“日本文化への関心の高まり”というのがこれなのです。欧米化された生活スタイル、ブランド物の大衆化、あふれる情報...といった中では得られない、新鮮な感動や癒される感覚が“和もの”にはあるということです。日本文化への関心は、単なる

写真

買い物の際、レジでの会計前に...

品物を移してもらい、会計をすませた後...



1 レジで、空のかごの方に風呂敷をセットする。



2 左右それぞれ隣り合う端と端で真結びをする。



3 二つの結び目を持ち手にして、かごから出して、完了。

写真



1 三角に折りたたむ。



2 左右の端はそれぞれひとつ結びをする。



3 残りの端同士を真結びして、完成。

ファッションではなく、その本質をとらえているという点では、“ふろしき”にとどまらない時代の潮流になる可能性を含んでいると思うのですがいかがでしょう。

4. ふろしきの活用法

では、今のライフスタイルに合ったふろしきの活用法を具体的にご紹介しましょう。

まずお勧めしたいのは、やはり「エコスタイル」。今、出回っているエコバッグと比較していただくとふろしき特有の利便性を実感していただけるはずです。写真 をご覧いただき、参考にしてください。スーパーのレジカゴでのお買い物対策に即活用していただけます。袋に入れ替える必要もなく、両端を2箇所結ぶだけでマイバッグの出来上がりです。サイズとしては90cmが適当です。買い物の量に合わせて結び目の位置を変えればいくらでも調整は可能です。ただ、買い物仕様は、対象が主婦層に限定されやすいので、高校生には…ピンと来ないかも知れません。が、デモンストレーションとして、ふろしきの特徴を端的に見せ説得するには大変効果的です。「エコ対策」として余分なビニール袋や紙袋を使わない、もらわない、という点で是非ご紹介いただければと思います（コンビニ仕様の場合は、レジで手間取らないためにも、先に両端を結んで形作っておきましょう）。

さて、もう一つとても簡単でアレンジの利く「バッグスタイル」をご紹介します。作り方は

写真 を参照下さい。家庭科の授業で作ったお料理やケーキなど、何かを安定して持ち運びたいときは外側に結び目のあるスタイル(写真)が最適です。器の形状にふろしきが自然に沿ってくれるので、丸い寿司桶でも、バスケットでも、幅広いマチの容器でも瞬時に対応できます。形状の全く異なる大きな

写真



パネルやフラワーアレンジメントなど、さまざまに試してみてください。紙袋やビニール袋では対応できないことがわかっていただけるはずです。そして用が済めば元通り、ほどいてたたんだらポケットにだって納まります。

さて、これで終わりではありません。今の要領で、今度はおしゃれにいきましょう。人気のスタイルをご紹介します。表面を内側にして三角に折ったら後は先ほどと同じ。両端をひとつ結びしたら今度はひっくり返しましょう。しずく型になったらOKです。先端を結べばバッグの出来上がりです(写真)。体操服やクラブの道具だって入ります。もし口が開きすぎて中身が落ちないか心配なら、先端の結び目を一つ下まで落としてから、また先端で結べばいいのです。もうこうなればふろしきには見えませんよね。いかがですか？ ふろしきが一枚あれば、もうサブバッグは必要ないでしょう。入れたいものの形状や量を見定めてから、あなた好みに仕立てていただければいいのです。学校の行き帰りで形状や使い方を変えることも可能です。急な雨に降られたらマントにだってなるのですから、その利用法は使い手次第で無限です。今回ご紹介したのは簡単なバッグスタイルですが、もちろんギフトのラッピングも、リビングでの活用法も、またファッションとしても

写真



幅広くお使いいただけます。誌面の関係でご紹介が限られてしまい残念ですが、まずは是非お試しください。お使いいただいている間に自分の使いやすいスタイルも見つかるはずです。

5. どう伝える？

生徒たちにどう伝える？ ここがポイントですね。最近、幼稚園、小中学校の保護者を対象にした講習会の依頼が増えてきました。そこでいつも申し上げるのは、まず、「今日覚えていただいたことを、帰ったらすぐ子どもさんの前で披露してくださいね。『お母さんってすごい！』『お父さんみたいになりたい！』って感動させることが“ふろしき”にはできるんです」と。ほんの些細なことでもお父さんやお母さんを通して知るのは尊敬につながります。そして何よりコミュニケーションが生まれ、思い出となって心に刻まれるのです。先生も一緒だと思うのです。生徒たちにとって先生は尊敬の対象です。先生から教わったこと、中でもインパクトのあったことは生涯忘れないでしょう。そんな印象に残る見せ方・教え方を是非していただければと存じます。生徒たちが興味を持つそのきっかけ作りでいいのです。「先生すごい！」から「ふろしきってすごい！」となれば、きっと後は自分たちでやってみたくなるのではないのでしょうか。暮らしの中で工夫する楽しみは、知恵を養います。ふろしきを使い始めると、「昔の人って偉い」「日本ってすばらしい」という実感がわいてきます。そういう部分を共感で

「真結び」と「たて結び」

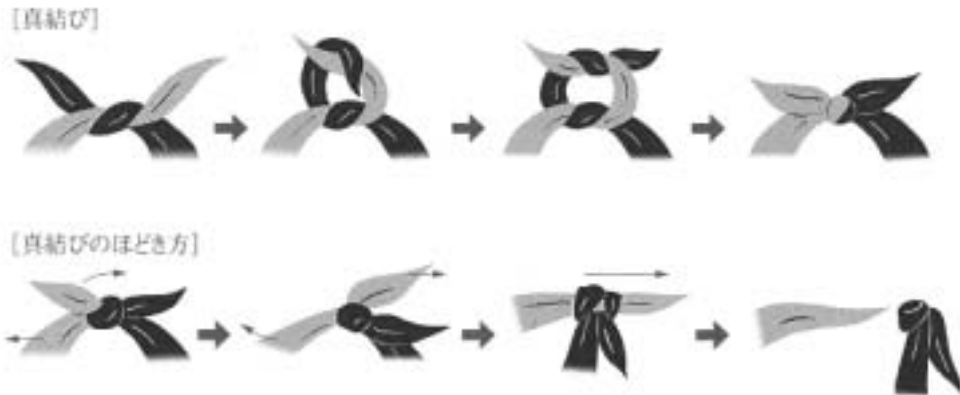
○ 真結び



× たて結び



図解



きることも素敵なことだと思うのです。

～ふろしきを魔法の布にするために～

それでは、「先生すごい！」と言わせる最も重要なポイントをお伝えしましょう。ふろしき使いの最大のポイント「真結び（まむすび）」です。この結び方、ほどき方がふろしきを自在に使いこなすためにもっとも大切です。図解 をご覧いただきながら是非やってみてください。はじめは、左右色の違うふろしきまたはハンカチを使ったほうがわかりやすいでしょう。若い人は大抵「縦結び」になっているケースが多いので要注意です。結べることも大事なのですが、ふろしきが使いたくなるのは、実は解けることの感動が一番効果的なのです。「先生すごい！」のポイントもこの解けるシーンが最大の見せ場ですのでがんばってください。今の生活には結ぶことが極端に減り、私たちは結ぶことに自信がありません。そして解くことに不自由さを感じ、できるだけ使いたくないのです。でも実はとてもとても簡単で、知ってしまえばこんなに楽で便利なことはないのが、「真結び」なのです。一度結べばほどけません。でも解きたいときには魔法みたいに解けるのですから…。本当に昔の人の知恵は素晴らしいです。これさえ覚えてしまえば、ふろしきは魔法の布です。ふろしきが扱いにくいと思っていらっしゃった方も、これで克服できたのではないのでしょうか。これでもう結び目を自由にコントロールできるようになりました。あとは慣れるまで何度か実践してみてください。きっと魔法の布だと実感していただけることと期待しています。

6. ふろしきの夢

単なる四角い布“ふろしき”が教えてくれる「日本の生活文化再発見」、いかがでしたでしょうか。“ふろしき”を見直すことは、環境問題への対策はもちろんのこと、私たちの母国、日本を知ることにもつながります。“ふろしき文化”は、けして過去のものではなく今に活かせる、未来に活かせることを少しは感じていただけましたでしょうか。グローバルな社会になればなるほど求められるのは、「自国の文化に胸をはれるか」だとも言われています。これからの若者たちが自信を持って世界に羽ばたけるように、身につけておくべきことのひとつが、もしかすると、“過去に学び、今に活かすことのできる力”なのかもしれません。家庭科という教科にしか担えない“生活文化”という分野の教育の場面で、“ふろしき”がお役に立てるのでしたら嬉しいことはありません。皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

写真 , , , , 「真結び」と「たて結び」

…出典：「風呂敷つつみ」バナナブックス刊

山田悦子監修 岡本寛治写真

執筆者・山田悦子プロフィール

美術系短大卒業後、テキスタイルデザイナー、テーブルコーディネーターを経て、現在、日本初の風呂敷専門店「京都和文化研究所 むす美」のアートディレクターを務める。風呂敷の魅力を伝えるために、講習会開催、新商品開発などに携わり、現代に合った風呂敷の活用法の提案やスタイリングを行う。